

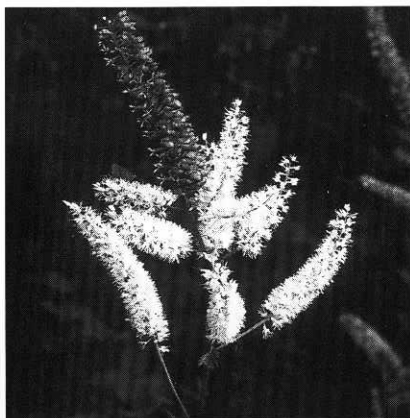
広報たかのす

もえろ
もえろ
災わざわいよ
され



'93 **3/1**

さらしなしょうま
(きんぽうげ科)



▲
花9月 思いつきり伸
びて咲く花は優雅で見
とれてしまう

▶
別名さなし りんごに
似た花をつける 秋に
赤い実をつけるが固い

すみ (ばら科)



2月15日号で、「つるありどうし」と
「げんのしょうこ」の説明文が逆に
なっていましたので訂正いたします

〔佐戸 阿部達雄さん〕

31・水	30・火	29・月	28・日 閉庁日	27・土	26・金	25・木	24・水	23・火	22・月	21・日	20・土 春分の日	19・金 東小(10…00)、西小(10…00)卒業式	18・木 南小(9…10)、綴子小(9…30)、中央小(10…00)卒業式	17・水 鷹小(9…30)、竜森小(10…00)卒業式	16・火	15・月	14・日 鷹中(9…20)、南中(9…30)卒業式	13・土 閉庁日	12・金	11・木	10・水	9・火	8・月	7・日	6・土 読書感想文・体験文コンクール表彰式(13…10)ファルコン	5・金 啓蟄	4・木	3・水 ひなまつり	2・火 鷹巣高校卒業式(10…00)	1・月 鷹巣農林高校卒業式(10…00)
------	------	------	-------------	------	------	------	------	------	------	------	--------------	--------------------------------	--	--------------------------------	------	------	------------------------------	-------------	------	------	------	-----	-----	-----	--------------------------------------	-----------	-----	--------------	-----------------------	-------------------------

〔表紙のことば〕



七日市地区の小正月行事「どんと祭」が2月13日に行われた。これは、古いしめ飾りやお守りなどを燃やし、五穀豊穡、無病息災を祈願する行事。7年前復活したこのお祭りは、地区住民の協力で、伝統行事として定着している。

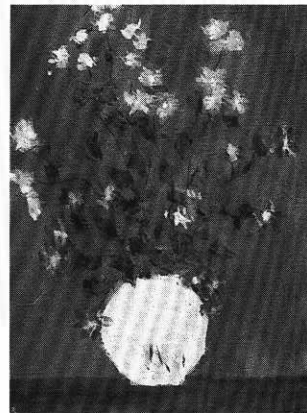
人口と世帯数

1月31日現在

住民基本台帳による

総人口 23,593人（±0人）
 男 11,347人（3人減）
 女 12,246人（3人増）
 （出生 19人 転入 41人）
 （死亡 27人 転出 33人）
 世帯数7,383世帯（1世帯増）

■ 四季の野草……………	2
■ 福祉のまちづくり……………	4
講演会／ワーキンググループの発表ほか	
■ 第6回ヤングマンテーブル……………	10
■ 新教育長、教育委員長が就任……………	11
■ まちの話題……………	12
鷹高生除雪ボランティア活動ほか	
■ 健康広場……………	14
生き生き健康教室講演会ほか	
■ 暮らしの情報……………	17
■ 読書感想文コンクール表彰式のお知らせ……………	20



「可 憐」（油絵）
 佐藤悌一さん（新田中）

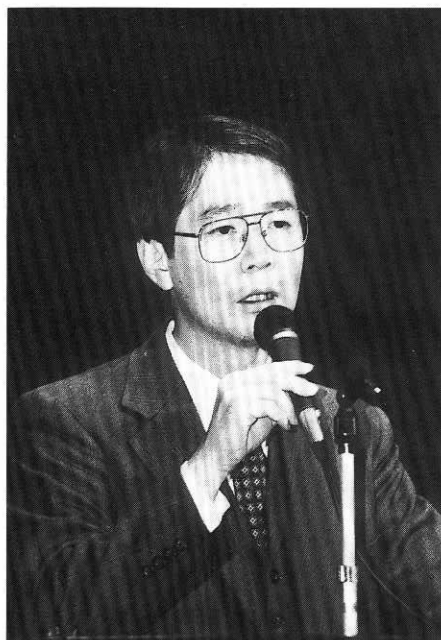
●第3回 福祉のまちづくり懇話会

老人福祉計画の策定には、
鷹巣町の「懇話会」のよう
に、計画策定の過程に住民
が関与しているというよう
なことが必要なのです。

●厚生省老人福祉計画課課長補佐

田河慶太氏

第三回福祉のまちづくり懇話会が二月十一日、交流センターで開催され、厚生省老人福祉計画課の田河課長補佐による「老人保健福祉の動き」と題した講演、ワーキンググループからの提言などが行われました。田河課長補佐は、高齢者保健福祉推進十か年戦略（通称ゴールドプラン）を中心に、国の老人福祉政策を説明、政策の柱となるのが在宅福祉であることなどを述べられました。そのあとワーキンググループによる提言と町のこれまでの取組と成果が発表され、「訪問看護ステーション構想」など、さまざまな提言が討議された懇話会となりました。



講師

厚生省老人保健福祉局
老人福祉計画課課長補佐

田 河 慶 太 氏

在宅福祉の

3 本 柱

国では現在、高齢者保健福祉推進十カ年戦略（通称ゴールドプラン）を進めています。これは平成二年から十一年までの十カ年の計画で、日本が北欧レベルの高齢化率になるまで、二十一世紀に向けた公的な基礎作りを進めようというものです。

ゴールドプランでは、高齢者の多くができるだけ住み慣れた地域で暮していくことを望んでいることから、これを支援する在宅福祉サービスの充実が急務となります。

在宅サービスの中でも、①

日常生活に支障のある高齢者がいる家庭を訪問して、介護・家事サービスをを行う「ホームヘルプサービス」、②寝たきり老人等の介護者に代わって特別養護老人ホーム等で短期間高齢者を預かる「ショートステイ」、③送迎用バス等でデイサービスセンターに来ていただき、入浴、食事、健康チェック、日常動作訓練等のサービスを提供する「デイサービス」、これらの整備が大きな三本の柱です。

しかし、いざこれらの制度や施設を利用したいと思ってもどうしたらいいのか案外わからないものです。そこで利用したいと思ったときに、いつでも気軽に相談に乗ってくれる機関が必要になってきます。これが「在宅介護支援センター」で、夜間も電話で二十四時間対応する施設です。

施設整備による 在宅福祉の充実

このようにして、在宅福祉を進めていくというのがゴールドプランの大きな柱ですが、

在宅福祉を充実させるためには施設の整備が緊急課題です。というのは、ショートステイやデイサービスは特別養護老人ホームを拠点として成り立っているからです。

この結果、施設が増えていくと今度はヘルパーなどの人的資源、いわゆる「マンパワー」が必要になってきます。また、在宅福祉には在宅医療を強化しないとうまくいきません。そこで必要になってくるのが「訪問看護制度」で、全国に五千人所作ることになっています。

厚生省は現在、県や市町村に「老人保健福祉計画」の策定をお願いしていますが、この中で、具体的なサービス提供の目標を提示しています。例えば、ホームヘルプは月に三回から六回、デイサービスは二回から三回、ショートステイは年に六回くらいなど、一週間を通じて何らかのサービスが受けられるようにというふうですが、実現できるかどうかはサービス提供のネットワークづくりにかかっています。

鷹巣町の「懇話会」のよう

に、計画策定の過程に住民が関与しているというようなことが必要なのです。

今、施設入所の手続き事務などが県から市町村に移り、さらに計画は作れ、大変ですが、是非この機会を生かすという意気込みでやってほしいと思っています。

国のメニューを うまく使って

計画の実施には財源が問題になりますが、国のメニューはさまざまあり、うまく使うという工夫が大事です。

例えば、市町村の福祉基金を設けるときの援助制度などもあります。これで高齢者のスポーツ大会を開催したり点字ガイドブックを作成したりユニークな例もあります。

これからはサービスの質が問われるようになります。国としてもサービス評価事業を始めようと考えていますが、特別養護老人ホームにしても食事はバイキング方式か選択式か、車イスは使えるか、観葉植物は置いてあるか、照明の具合はなど、サービス向上

のための努力が利用者の側から見てもなされているかどうかの評価の基準になるでしょう。

またゴールドプランには入っていませんが、福祉機器（補助器具）の開発も急務です。現在のところは使いやすく、価格の安いものがないので、法律を作り開発研究を進めます。さらに、保健でも給付できる制度を確立したいと考えています。

また、在宅福祉は住宅の問題でもあります。現在建設省とともにシルバーハウジング、緊急時の通報システムなどを研究中です。

鷹巣町はワーキンググループなど住民参加によって計画が練られています。住民の総意による福祉のまちづくりで、鷹巣町が将来日本のデンマークと呼ばれることを期待しております。

田河課長補佐の講演の後、ワーキンググループからの提言発表が行われ、「福祉行政の改善」「マンパワーの整備」など十のテーマで、それぞれのグループがこれまで調査・検討を行った改善点などが示されました。これらの提言の中から主なものを、具体的な町の施策になった成果と合わせ、紹介いたします。

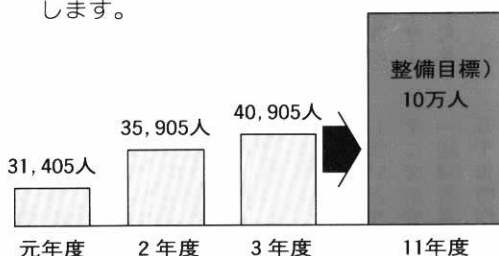
■第一グループ（ボランティアの育成とネットワークづくり）
提言▼①幼少期から高齢期ま

で、年代に応じた福祉教育を生涯学習という形で続け、全町民の福祉に対する意識を高める
②広い層にわたってボ

在宅福祉推進十か年事業（ゴールドプラン）

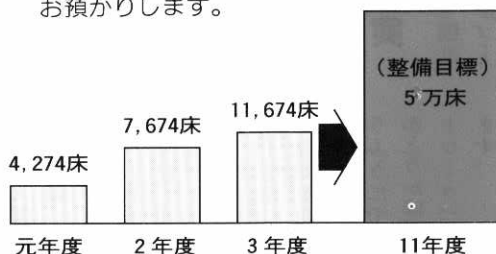
1. ホームヘルプサービス

日常生活に支障のある高齢者がいる家庭を訪問して、介護・家庭サービスを提供します。



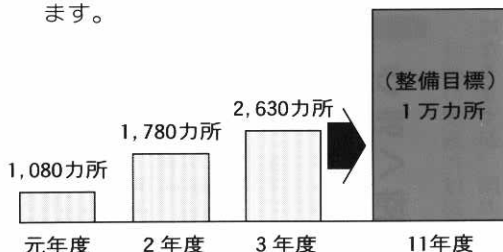
2. ショートステイ

寝たきり老人等の介護者に代わって、特別養護老人ホーム等で短期間、高齢者をお預かりします。



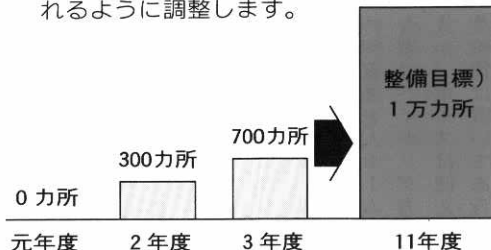
3. デイサービス

送迎用バス等でデイサービスセンターに来ていただき、入浴、食事、健康チェック、日常動作訓練等のサービスを提供します。



4. 在宅介護支援センター

身近なところで専門家による介護の相談・指導が受けられ、市町村の窓口に行かなくても必要なサービスが受けられるように調整します。



ランティアを育成するため、学習会を多く開催する。③要援護者を地域全体で見守るネットワークや、ボランティア情報を収集・発信する機関が必要

成果▽「鷹巣町ボランティア団体連絡協議会」が昨年十二月四日、十一団体二百十五名で発足しました。▽昨年十二月一日、社会福祉協議会にコンピュータが導入され、ボランティアセンターとしての機能を整備するため、団体及び個人ボランティアの情報を入力しています

■第二グループ（福祉行政の改善）

提言▽①役場福祉係と社会福祉協議会が離れているので利用者には不便。両者を隣接して配置し、また福祉相談の総合的な窓口を置くべき。②福祉関係の申請手続は煩雑なので職員の増員などで申請者の負担を軽くすべき。③在宅介護手当の支給を。④ヘルパーの費用負担を無料に

成果▽「役場機構改革検討委員会」を設け平成五年度実施にむけて、福祉相談窓口の一本化、サービス行政をどのよ

うに進めるか検討中

■第三グループ（公共機関と公共施設の整備改善）

提言▽①障害者用公衆電話とトイレを児童公園に設置する。②役場の玄関を自動ドアにし障害者用トイレを設置する。またすべての公共施設にスロープをつける。③リフトカーを購入し、通院等に利用してもらう。④車イスで役場・駅前間を試乗した結果、段差や傾斜が多く、道路や歩道の整備、また商店の陳列棚の配列など、もっと障害者の視点で整備するよう働きかける。

成果▽「住みよい福祉のまちづくり事業」を導入し、平成五年度から三カ年で総額四千五百万円の事業を行う予定です。▽平成四年度は暫定的に役場庁舎玄関前に車椅子利用者用呼び鈴、町民ホールにカウンターを設置しました。

■第四グループ（マンパワーの整備について）

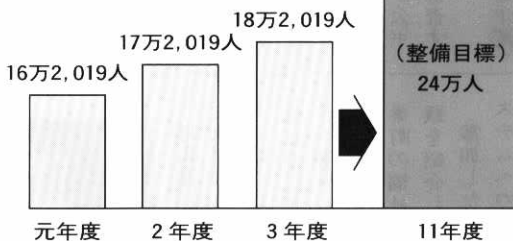
提言▽質の良い保健・医療、福祉サービスの提供するための専門スタッフの増員

成果▽昨年十二月、十三名のパートヘルパーを採用し、現在二十二名体制となっている

施設対策推進十か年事業（ゴールドプラン）

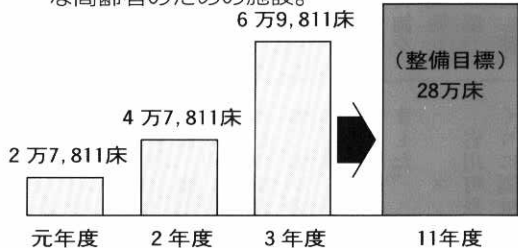
1. 特別養護老人ホーム

常時介護が必要で、家庭での生活が困難な高齢者のための福祉施設。



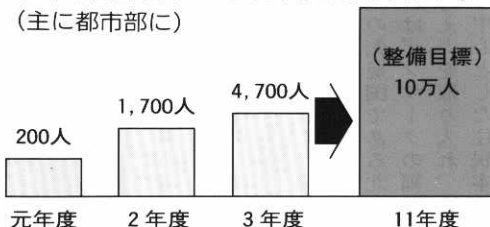
2. 老人保健施設

入院治療は必要ではないが、家庭に復帰するために機能訓練や看護・介護が必要な高齢者のための施設。



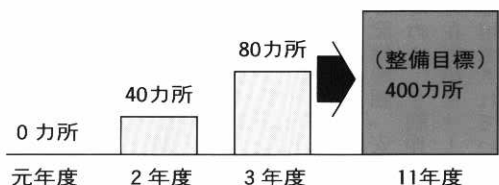
3. ケアハウス

車いすやホームヘルパー等を活用し自立した生活を継続できるよう工夫された新しい軽費老人ホーム。一人暮らしや夫婦のみ世帯の高齢者のための安心できる住まい。(主に都市部に)



4. 高齢者生活福祉センター

過疎地等の高齢者向けに、介護支援、安心できる住まい、地域住民との交流の機能を総合的に備えた小規模の複合施設。



10のワーキンググループの代表から提言が発表された



■第五グループ（医療と福祉の連携）

提言▼寝たきりを作らないために、病院から家庭に戻る際のケアが大切なことから「訪問看護ステーション」の設置を強く要望したい

成果▽鷹巣町医師団の協力をおき、計画します。

■第六グループ（デイサービス、ショートステイの整備）

提言▼①お年寄りが気兼ねなく集まれる自治会館などの施設でデイサービスを ②介護技術を磨くために、介護者の会を作り、専門職の養成を

成果▽デイサービス、地域福祉活動支援、教養娯楽活動等の事業を実施するため、「地域福祉センター（仮称）」を設立し、平成五年度は基本設計と運営内容について検討、計画書を作成します

■第七グループ（総合福祉センターの建設）

提言▼長期的な展望から、福祉のまちに即応したいいつでも町民のだれもが気軽に利用できる総合的な施設の建設を

■第八グループ（住宅改善）
提言▼補助金制度を有効に利用し、質の高い公営高齢者住

宅の建設を

成果▽とりあえず、現在高齢者が入居している町営住宅に手すり等を取り付けます

■第九グループ（在宅ケア）

提言▼①在宅ケアは現在のところ施設ケアに比べて量的に少なくまた公平とは言い難い個別化、多様化しつつある在宅サービスの公平化のために国庫補助制度を用いた民間委託を ②福祉サービスが公平に実施されているかを審査する制度の導入を

成果▽平成四年度は入浴介護を週二～三回に、また家事身体介護も増やしています 平成五年度はパートヘルパーを常勤化します また今年度中にリフトバスを一台購入します（購入費の一部を丸紅基金より寄付いただいた）

■第十グループ（障害児福祉について）

提言▼障害を持つ子供とその親に、希望と障害に立ち向かう勇気を与えるために、「心身障害児通園事業」の実施を

成果▽平成五年度より実施します（北秋田郡町村会の協力により、町内の公共施設を整備転用する）

住民本位の福祉サービスを

— 地方新時代シンポジウムより —

地方都市のあり方を住民と行政が語り合う「地方新時代シンポジウム」が二月四日、五日の二日間、神奈川県川崎市で開かれ、鷹巣町からも岩川町長が参加。これまでの鷹巣町の福祉のまちづくりの実践を紹介しました。

参加したのは「地域ケアシステムへの模索」老人保健福祉計画づくりを機に」と題した分科会。パネラーは、岩川町長のほか、先の福祉懇話会にもおいでいただいた、記録映画監督の羽田澄子さん、岡山県津山市職員組合の秋久委員長、地元川崎市の川崎幸病院の杉山副院長です。高齢者が住み慣れた地域で生活し続けるための保健・医療と福祉の連携をどうしていくか、など各分野から問題提起がありました。

岩川町長は、まず、まちづくりには福祉を掲げたのは、町民が共同で関わり、かつ共益

があるものこそがまちづくりの基本であり、また地域間競争に勝てるもの、それが福祉であったことを説明。さらに、福祉のまちづくり懇話会を設置し、徹底した討論の後、福祉の先進国である北欧、とりわけデンマークの福祉政策の考え方を取り入れ、在宅ケアを中心とした住民本位の福祉を目標に、ワーキンググループの活動・提言を生かしながら、取り組んできたことを紹介しました。

とりわけワーキンググループの活動については、メンバーとなった住民の活動が直接行政の施策に反映されていることから、関心を持たれた方が多くいたようでした。

記録映画監督の羽田さんからは、高齢者福祉問題を取り上げた記録映画「安心して老いるために」を制作した経験から、在宅福祉サービスが形として用意されていても、そのサービスを受ける老人の

第3回 鷹巣町福祉のまちづくり懇話会



■七日市第一グループ

成果▽「竜森地区福祉コミュニティセンター（仮称）」の設置 福祉サービスの提供、通所・交通（移送）が大きな

障害となることから、町内で最遠隔地に位置する七日市奥地（竜森小学校区）を一つのエリアとして、ミニデイサービスも取り入れた地域コミュニティセンターを設置する

◇ ◇

ワーキンググループの提言に対し、懇話会の各委員からは「車イスによる町内の試乗体験はいいこと。しかし障害者など車イスの利用者が同行しないと説得力に欠けるのでは」（大熊由紀子委員）「第十グループの提言のように障害児に対するケアも忘れてはいけない。というのも、障害児の親が高齢者になったときのことを考えておかなくてはならないから」（清水浩志郎委員）「高齢者が要介護状態にならないための、いわば『予防的』な福祉を考えることも必要」（佐藤牧生委員）といった意見が出されました。ワーキンググループの活動によって少しずつ、あるべき福祉の姿が見えてきましたが、今後更に問題点を検討、整理し、行政の施策に反映させていくことになります。

意向にあわなければ本来のサービスにはならないこと、また、このことは福祉の精神が豊かな人材を配置することではじめてできること、などの意見が述べられました。

地元元崎市で往診、訪問看護を中心とした在宅ケアに取り組んでいる杉山氏も、羽田さんと同様、「医療、福祉はサービス業である」という認識に立って利用者の立場を尊重する姿勢が重要、という意見でした。

労働組合の立場からいち早く各市民団体や、ケースワーカー等の職能層に呼びかけ、老人保健福祉計画策定のための研究会を発足させそのプランを行政に提案した岡山県津山市職労の秋久氏は、各界各層の意見が行政に十分に集約、反映されなければならないことを提言しました。



▲分科会に参加したいずれのパネラーからも、これからの福祉サービスの基本が、サービスを受ける側に立った住民本位の福祉でなければならないことが提言された。

「遊研修制度」五年度実施へ

総合レジャー施設の建設も検討

魅力あるまちづくりのために何が必要か。ヤングマンテーブルではこれまで様々な角度から検討を重ね、昨年来町へ、十二項目の協議報告書が提出されました。これを受け二月十五日第六回ヤングマンテーブルが開催されましたのでその内容を紹介します。

ヤングマンテーブルは、平成三年十二月五日の第一回テーブルから、由利町の「夢を咲かせる会」との交流などを含め六回の話し合いが行われてきました。

昨年末提出された「ヤングマンテーブル協議報告書」では▼五年度実施してもらいたい事業として①町内開催の同窓（級）会に助成を②人口対策に定住祝金、Ｕターン奨励金の創出を③若者の視野、経験を豊富にするための遊研修制度の創出を▼調査を行ってもらいたい事業として①総合レジャー施設の建設②若者向け住宅群の建設、宅地造成③太鼓のまちづくりを全国にP



R強化④自治体コマージュの制作、さらに▼今後検討事業として①大学誘致②企業誘致③主力農産物、特産品の発掘、指導、育成④地元にあ着心のもてる心の教育の環境づくり⑤ケーブルテレビ、パソ

コンネットワークづくりが提案されました。

この日のヤングマンテーブルで岩川町長は、遊研修制度について、他の地域のさまざまな現場に溶け込み視察しながら、町勢発展のために具体的な提言をしてもらう制度として、五年度実施に向けて取り組みたいとし、さらに、太鼓のPRと兼ねた総合レジャー施設、勤労者が安心して住める住宅群の建設について、今後調査を進め事業化したいと、ヤングマンテーブルの提案に対する回答を示しました。

しかし、これらを具体的に推進し、実りあるものにするためにはなお一層、町民と行政が一体となった取り組みが必要となります。町が活性化することは全町民の願いであり、これらが地域活性化の一手段として、有効に活用されることが期待されます。

蓄音機（器）



レコード盤を回し、録音した音を再生する装置。1877年に、エジソンによって発明された。レコード盤は音盤、種板とも言ったもので、材質がもろく、落とすとよく割れたものだった。現在ではCDプレーヤーが主流になっている。

〔松葉町 佐藤富雄さん〕

広報 クイズ

広報クイズへのご応募ありがとうございました。2月1日号の正解は次のとおりです。

- ▼問1 足立区 ▼問2 二百八十二万三千四百二十九円
- ▼問3 市川房枝
- 当選者（正解者）は次の方々です。

- ▽小塚悦子さん（花園町）▽長崎星子さん（坊沢新屋敷町）▽藤本竹雄さん（七日市松沢）▽寺田正子さん（坊沢屋敷）▽戸沢孝彦さん（米代町）
- 3月1日号の問題

- ▼問1 厚生省が進めている老人福祉政策の名称は、○○○プラン

- ▼問2 首都圏在住の鷹巣地区出身者の会の正式名称は？
- ▼問3 鷹巣阿仁部の三つの農業共済組合が合併する日は？
- 応募方法

ハガキに、問題の答えと住所・氏名・年齢・職業・小中高生は学校名と学年を書いて係まで送ってください。正解者の中から抽選で5名の方にテレホンカードをプレゼントします。

応募先

〒018-33 鷹巣町花園町19-1 鷹巣町役場広報係
■締め切り 3月15日（月）
■広報係では、皆様からのお便りをお待ちしています。身近な話題などをお気軽に寄せてください。

2日(火)午後、一昨年の台風19号で大きな被害を受け、新築を進めていた東保育園が木の持つ感性や温もりを生かした優しさあふれる設計で完成。竣工式を迎えた。お祝いに園児たちが「白雪姫」を披露。健康ですくすくと育ってほしい。

3日(水)午前、庁内事務調整会議。午後、川崎市の地方新時代シンポジウムに招かれ上京する。

4日(木)シンポジウム分科会のテーマは「地域ケアシステムと老人保健福祉計画」。鷹巣町での住民参加型の取り組みや、老人保健福祉計画を進めるための町村における問題、行財政諸制度の効果的活用、職員と共に取り組むシステムなど出来ることから始めたいと述べる。

5日(金)午前、早い便で帰庁し、午後からの空港地権者会設立総会に出席。地域の方々に一日も早い開港を目指して特段のご協力をお願いする。

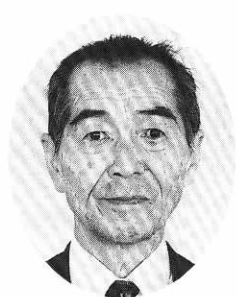
9日(火)午前、国有地や元国鉄用地などの利用取得について議会の意見を聴くため、議員全員協議会を開催。

11日(木)高齢化に対応し町の福祉の方向を求めて昨年6月から精力的に進めてきた「福祉のまちづくり懇話会」が交流センターで開かれ、ワーキンググループの実践発表に続いて、各委員の先生から、今後の町の福祉施策の方向について提言をいただいた。

また、懇話会に先立って厚生省の田河慶太氏に老人保健計画について講演をいただいたが、国の今進めている福祉政策について具体的で分かりやすい内容のお話であった。特に、鷹巣町が、「日本のデンマークになるよう期待したい」と述べられたのが印象的であった。

教育長に佐藤秀男氏

教育委員長には長岐和賀氏が就任



佐 藤 教 育 長

までです。

任期は平成八年九月三十日

鷹巣町小森字小森26。

から鷹巣町教育委員長。住所

長、五十七年鷹巣中学校長、

五十九年退職。平成四年十月

から鷹巣町教育委員長。住所

東小学校長、五十二年森吉中

学校長、五十五年田代中学校

長、五十七年鷹巣中学校長、

四十七年浦田小学校長、五十

四十七年教育庁指導主事、四

十一年浦田小学校長、五十

四年森吉中学校長、五十二年森吉中

学校長、五十五年田代中学校

長、五十七年鷹巣中学校長、

五十九年退職。平成四年十月

から鷹巣町教育委員長。住所

鷹巣町小森字小森26。

町教育委員会定例会が一月二十日開催され、今年一月一日以降空席となっていた教育長に、前教育委員長の佐藤秀男氏(68)を推薦、これを受け県教育委員会が二月五日に行われ同意、二月九日付で佐藤氏が教育長に就任しました。

また、町教育委員会では、佐藤氏の教育長就任に伴い、教育委員長に長岐和賀氏(65)、同職務代理者に藤原興道氏(51)を選任しました。

【佐藤教育長の経歴】

昭和二十年九月秋田県師範

学校(現秋田大学)卒業。同

年沢口国民学校訓導、その後

沢口中学校教諭、明徳小学校

教諭、大館第一中学校教諭、

山王中学校教諭などを経て、

四十七年教育庁指導主事、四

十一年浦田小学校長、五十

四年森吉中学校長、五十二年森吉中

学校長、五十五年田代中学校

長、五十七年鷹巣中学校長、

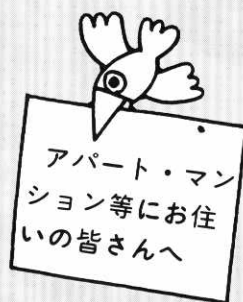
五十九年退職。平成四年十月

から鷹巣町教育委員長。住所

鷹巣町小森字小森26。

任期は平成八年九月三十日

までです。



広報一月十五日号でお知らせいたしました。が、町では、アパートやマンションなど共同住宅にお住まいの方々の住民票に、方書(アパート名・部屋番号)を記載し、対象となった方には二月末日までに確認のための通知をいたしました。

今回は、町の資料によってアパート、マンションなどに住民登録をしている世帯を抽出しましたが、対象となるすべての世帯を把握するまでには至りませんでした。アパート、マンション等にお住まいの方で、「まだ通知を受けていない」という世帯がありましたら、町民課戸籍係までご連絡ください。



鷹巣高校の二年生百七十人が、二月十日、町内の一人暮らし老人宅や通学路で除雪の奉仕活動を実践しました。

同校は、これまで、一人暮らし老人宅の友愛訪問などさまざまな奉仕活動に取り組み、一昨年から県社会福祉協議会からボランティア活動協力校に指定されています。

この日は、舟見町や南鷹巣などで、十三世帯の一人暮らし老人宅のほか、通学路も除雪奉仕。今年の冬は雪が少ないだけに、ちょっと物足りないボランティア活動だったようです。

今年もありがとさん！

—鷹高生が除雪ボランティア—



「毎年すまないねー」に「まかせでけれ」



通学路の除雪も自分たちで

農業共済組合

7月1日合併を確認

—広域化に向けて合併の予備調印—



北秋田、阿仁町、上小阿仁村の三共済組合の合併を確認するための調印式が二月八日、町内のホテルで行われました。農業共済とは、農家が掛金を出し合い、農産物などに風水害等の被害があったとき、その被害を保証する制度のこと。現在鷹巣阿仁部では、鷹巣町、合川町、森吉町を区域とする北秋田農業共済組合と阿仁町、上阿仁村でこの事業が行われています。

この日の予備調印は、七月一日に三組合が正式に合併す

るためのもので、平成二年度からの懸案であった、共済組合の広域化がいよいよ実現することになります。(合併後の名称は「北秋田農業共済組合」)

合併によって、組合員数は五千七百五十九人(北秋田四千九百人、阿仁町二十七人、上小阿仁村四百三十二人)、総代員数は百二十九人(鷹巣五十三人、森吉二十五人、合川三十一人、阿仁十人、上小阿仁十人)と組織が強化、拡大され、これまで以上に機能的な共済制度の運用が可能になります

舞台に若さはつらつ

—大館桂高校演劇部公演—

大館桂高校演劇部による演劇「小っちゃなバスケット」の公演が二月十一日、たかのす風土館ホールで行われました。

同校の演劇公演は、青少年育成鷹巣町民会議の主催で行われているもので、今年で五回目。今回上演された作品は、若くして母親になった高校生の理想と現実を描いた作品。あまりにも若すぎる母親となったために、学校では優等生ではあるけれど、背伸びをしても大人としての「母」にはなりきれない、そんな高校生像を感情豊かに演じていました。



東京鷹巣米代会

ふるさと談義に花が

—結成以来5年ぶりの開催—

首都圏に居住・就業している、旧鷹巣地区出身者の会「東京鷹巣米代会（佐藤忠一郎会長＝仲町出身）」の総会が二月十四日、都内のレストランで開催され、多くの参加者でにぎわいました。

米代会は、昭和六十三年に結成されて以来五年目を迎えましたが、この間、親会である東京鷹巣会が結成されたこともあり、五年ぶり二回目の開催。この日の総会では新会長に木村庄一さん（仲町出身）が選出され、また懇親会では大館能代空港の話題など、ふるさと談義に花が咲きました。

馬場林野庁長官

森林組合の若者を激励

—5人の若手職員と1時間の懇談—

氏名	年齢	職名	所属
佐藤 忠	45	専任職員	山形県
佐藤 忠	45	専任職員	山形県
佐藤 忠	45	専任職員	山形県
佐藤 忠	45	専任職員	山形県
佐藤 忠	45	専任職員	山形県



右端が馬場長官

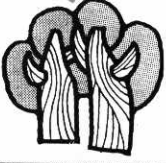
林野庁の馬場久萬男長官が二月十三日、鷹巣町を訪れ鷹巣町森林組合の若手職員と懇談、山林の現場作業に従事する若者を激励しました。

最近では、林業をはじめ土木・建設業など、現場作業を主な仕事とする職業への若者の就職率は低くなっています。が、鷹巣町森林組合では、六人の若者が、山林での下刈りや間伐作業、また間伐材の加工といった現場作業に従事、

ひたむきに頑張っています。それだけに、長官も全国的にも例が少ない同組合の活性化対策や、若者の頑張りやうに関心を持ったことからこの日の懇談となったものです。

「高校で学んだことと現場とはどう違いますか」との長官の質問にも「教科書では知ることができなかった、実際の作業のコツがわかってきたのでやりがいが出てきました」と感想を述べていました。

健康広場



保健課からのお知らせ

福祉を軸として進む町に未来が

健康と福祉の特別講演会

「健康で安心して住める町をつくるために」

― 講師 全国自治体問題研究所事務局長 ―

池上洋通氏

子どもの社会的問題 の一因に少子化

私はこのような講演会で全国各地へ出かけますが、秋田へは飛行機で一時間で来ることができます。ほとんど便利になっています。しかし、その時間的距離が短くなればなるほど、人々の心の距離は離れていつているのではないかと思うのです。

東京などで子どもについての最大の問題は登校拒否です。私は年

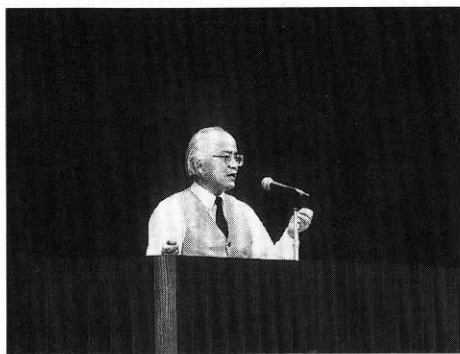
この町に住んでいれば安心できる。体をこわしてもこういう制度がある。そんな町を目指して、健康と福祉の特別講演会が二月十六日、たかのす風土館で行われました。

講演会は、元日野市役所社会福祉課課長補佐で、現在全国自治体問題研究所事務局長として活躍されている池上洋通氏を講師に、日野市で考えたこと、障害者で考えたことなどを、どうしたら町の中で具体的に実現できるかを事例を混じえて紹介されました。

鷹巣町が本当にいい町になるというのはどういう町になることなのか。町をつくる力とは何なのかを一緒に考えてみましょう。

いをして暮らさなければならなかったのか。本当に涙が出ました。

いま、子どもの問題がこんなに大きく広がった原因の一つは、子どもの数が減ったことにあります。女性が一生のうちに生む子どもの数は平均一・五三人となっていますが、人間が社会的な感覚をもつために最低限必要な人数は三人です。兄弟姉妹で社会性を培うことがなくなっているのです。さらに、この子たちが大きくなって結婚して子どもができるとおじさんもおばさんいともいない子どもになります。そんな子どもの寂し



いけ がみ ひろ みつ

池上 洋通氏

昭和16年静岡県生まれ。国会記者、ルポライター、東京都日野市役所を経て全国自治体問題研究所事務局長。

地域文化運動（劇団ひの）を創立し、日野市難病運動を通して自己実現の地域運動を実践。著書に、「燃えさかれいのちの火」等多数。

さをわかっているのでしょいか。

子どもの数が少ないと、どの子も大きな期待がかけられます。素直な子ほど期待に応えようとどんな自己の方へ照り返し、ついには登校拒否となります。これは私たちの社会に対する価値感が少しづつ狂ってきていることではないでしょうか。私たちの社会がいつの間にか作りあげてしまった学歴社会のようなものはどこへ行きつくのか。それは、人間の価値判断をするときに、額に汗を流して働く人間は価値が低い、きれいな服を着てきれいな事務所働く人間が価値が高いという価値感を生んでいるのではないのでしょうか。

どう生きるのか 態度の価値が大切

日野市で難病運動をしている時、進行性筋萎縮症の少年と出合いました。この病気は、二〜三歳で発病が確認され、五〜六歳で歩行が困難となり、十歳位で車椅子、十五歳位で寝たきり、二十歳前後で死ぬという経過をたどります。その過程で自分は若いうちに死ぬと

いうことをさとり、「生まれてこなければよかった。両親に迷惑をかけるために生きている」と思うようになります。親は自分の生命のすべてをかけてその問いに答えなければならぬのです。

私の出会ったその少年は十四歳でそのことを知り、父親に何歳まで生きられるか聞いたのです。父親はつらさを押さえ、「いつまで生きられるかではなく、どんなふうに生きたかが問題なんだよ」と答えました。私は、人生とは何か、生きていることは何かを正面から考えさせられました。

私たちが障害者との活動の中で到達した結論は、人間の価値は、どんな態度で、どんな姿勢で生きるかという、態度の価値なのです。いい町になるということは、学歴のある人がたくさんいる町ということではないのです。

行政の力でない 力が 必要

私は、福祉というのはそういう社会のあり方を、みんなが手さぐりの状態から、手と手が触れ合っ

た時に共同して何かやってみようかと思うことからじまると思っています。そしてまた何かわからなくなったら手さぐりをして手を握り合ってみる、そういう努力を繰り返して町が良くなっていくのだと思っています。

日野市では車椅子のまま乗れるリフト付車椅子タクシーが走っています。「障害者の足を確保する会」の自由な討論から要望され、行政が委託費を払ってできたものです。ところが、はじめは一社で走らせていたのが、他のタクシー会社で住民の問い合わせなどから「車椅子タクシーを走らせなければみつともない。走らせてくれ」という申し出があったのです。つまり、車椅子タクシーを走らせなければみつともないという世論を形成できる力を住民がもたなければいけないのです。行政の力ではない力が必要だと感じました。

町をつくる力はどこにあるのか。それは町民一人ひとりの暮らしと考え方の中にしかないのです。人々の幸せに向かってどのくらい力をもっているのか、他人の幸せに心を砕ける力なのか、そこから町のあり方が変わってくるのです。市

3月の健康ごよみ

■ 1日（月）15日（月）

○母子健康手帳交付と

第1回妊婦教室

受付—午後1時～1時30分

（妊婦教室終了は3時）

場所—中央公民館健康相談室

持参—印かん

内容—妊娠中期の生活指導他

■ 2日（火）～5日（金）

○はしか予防接種

・2日～奈良医院

・4日～中央病院、藤原医院

・5日～としま医院

■ 3日（水）

○3歳児健康診査

対象—2年1月、2月生まれ

受付—午後1時～1時20分

場所—鷹巣保健所

持参—母子健康手帳、問診票他

■ 9日（火）

○2歳児歯科健康診査

対象—2年12月、3年1月生まれ

受付—午後1時～1時20分

場所—中央公民館ホール

持参—母子手帳、問診票、歯ブラシ

■ 10日（水）24日（水）

○健康相談と健康教室

時間—午前10時～午後3時

場所—中央公民館健康相談室

内容—老人ぼけを防ぐ、その他

■ 11日（木）

○第2回妊婦教室

時間—午前10時～午後3時

場所—中央公民館健康相談室

持参—母子手帳、昼食（主食）

トレパン

■ 16日（火）

○リハビリ学級

場所—中央公民館相談室

内容—室内運動、作業療法

民が、議会が、行政が力を出し合っ
て制度が成立します。どんな制度
も充分使いきって、もっと良くす
るためにはどうしたらよいのか考
え合うことが大切です。

町民の幸せそして
世界中の幸せを

鷹巣町ではどうしたらいいのか、
どうしたら若者がいるようになる
のか、企業誘致をすればいいの
か、しかし、どんな大きな企業が
活性化しているようにみえても、
その利益はその地域に落ちないの
です。基本は自分たちの資本でな
ければならないのです。苦勞して

も、この方向ならば苦勞のしがい
があるだろうと、若者の肩をたた
いて、励まし合い、一緒に進む町
をつくるのが今求められています。
す。

本当に経済が活性化していく町
とはどんな町か、どんな町が人ら
しい町といえるのか。私は福祉を
軸として進む町こそ未来があると
考えます。地方自治、地方分権が
さかんに言われる中であって鷹巣
町二万三千人がどうしたら幸せに
なれるか、そして幸せになろうと
思ったら、となりの町もまたその
となりの町も、さらに世界中の人々
が幸せになるように考えなければ
なりません。

夜間当番医（夜間診療）日程表

○応急の診療を要する患者。
○往診はしておりません。
○仕事や職場の都合で夜間
診療を受けるケースは、
※年齢・病気の症状にかか
わらず当番医に電話等で
ご相談を受けてください。

3月	曜日	医 療 機 関 名	電話番号
1	月	鷹 巣 病 院	62-1210
2	火	戸 嶋 産 婦 人 科 医 院	62-1123
3	水	近 藤 医 院	62-1155
4	木	奈 良 医 院	62-1146
5	金	佐藤外科消化器科医院	62-1420
6	土	藤 原 医 院	62-2882
7	日	北 秋 中 央 病 院	62-1455
8	月	佐々木産婦人科医院	63-0105
9	火	盛 岡 外 科 医 院	62-1101
10	水	と し ま 医 院	62-1267
11	木	戸 嶋 産 婦 人 科 医 院	62-1123
12	金	北 秋 中 央 病 院	62-1455
13	土	近 藤 医 院	62-1155
14	日	奈 良 医 院	62-1146
15	月	佐藤外科消化器科医院	62-1420

暮らしの情報

INFORMATION

固定資産税 台帳の縦覧

平成五年度の固定資産税の基礎となる固定資産税台帳を次により縦らんいたします。

▽期間 3月1日～3月20日

▽時間 午前8時30分～午後5時まで、土曜日は12時30分まで、ただし第二土曜日、祭日は除きます。

▽場所 役場税務課資産税係

行政相談日 今月は10日

私たちの生活は、行政と深くかかわっています。

日頃、行政に持っている不満や要望などを申し出てみませんか、行政相談委員がみなさんの不満や要望を聞き、秋田行政監察事務所と協力し、

その解決を図っています。

相談は無料です。お気軽に

おいでください。

日時 3月10日（水）

午前10時～午後3時

場所 中央公民館

相談委員 近藤栄一

鷹巣町材木町6-30

62-2110番

災害共済に加入を — 少ない掛金 —

大きな給付 —

町では少ない掛金で大きな給付のある「交通災害共済」と「不慮の災害共済」の新年度分加入を受け付けています。

両方に加入していただいても、年額はたったの千円、両方のセット加入をおすすめいたします。

■交通災害共済

▽掛金（年額） 400円

▽給付額 死亡 100万円

後遺障害 100～50万円

円、傷害治療 1万5千円

～20万円

■不慮の災害共済

▽掛金（年額） 600円

▽給付額 死亡 100万円

後遺障害 100～50万円

問い合わせは

ハローワーク たかのす

（大館公共職業安定所鷹巣出張所）

TEL 0186-62-1240

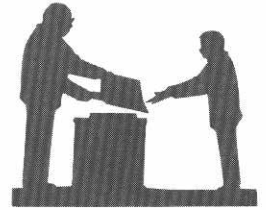
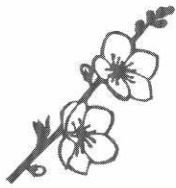
ハローワーク求人情報

【男子】

職 種	年 齢	基本給 (万円)	資 格 免 許	業 種	就業場所
測量設計 施工管理	20歳～ 25歳	13.7～ 16.2	測量士 測量士補	測量、土木設計 計、施工管理	鷹巣町
営 業	22歳～ 35歳	13～18	—	印事務機販売	鷹巣町
トラック運転手	25歳～ 35歳	15～ 16.2	普通免許 経験者	4トントラック での集荷業務	鷹巣町
自動車整備員	19歳～ 35歳	11.7～ 18.9	普通免許	自動車の整備等	鷹巣町
旋盤工、仕上 工、溶接工	20歳～ 65歳	18～25	普通免許	自動車の整備等	鷹巣町
技 術 者	18歳～ 35歳	14.3～ 24.6	—	ガラス用金型 鋳造の製造	合川町
木材加工員	18歳～ 50歳	10.3～ 16	—	製材加工等によ る木製品の製造	森吉町
縫製技術員 研 究 員	18歳～ 25歳	12.5	—	婦人服製造にお ける技術の研究	鷹巣町
印刷製版工	18歳～ 25歳	12～ 14.5	—	印刷用原板の 製作	鷹巣町
土木施工管理 師助手	18歳～ 40歳	15	普通免許	現場監督員 の 助 手	鷹巣町

【女子】

職 種	年 齢	基本給 (万円)	資 格 免 許	業 種	就業場所
看護婦 看護婦	18歳～ 40歳	11～18	看護婦 看護婦	内科、皮膚科を中 心とした診療所	鷹巣町
事 務 員	19歳～ 25歳	10.5～ 11	普通免許 簿 記	自動車修理、 板金、販売業	鷹巣町
組立製造要員	18歳～ 40歳	11.5～ 13	—	医療用具製造	鷹巣町
縫製技術員 研 究 員	18歳～ 25歳	12.5	—	婦人服製造にお ける技術の研究	鷹巣町
縫 製 工	20歳～ 50歳	10.1～ 14.3	—	ニット、トレー ナー等の製造	鷹巣町
ミシン縫製工	18歳～ 55歳	10.1～ 14.3	—	婦人服の縫製 (ミシン・アイロン)	鷹巣町
婦人服縫製	不問	10～ 11.4	—	婦人服の縫製 (ミシン・アイロン)	鷹巣町
印刷製版工	18歳～ 25歳	12～ 14.5	—	印刷用原板の 製作	鷹巣町
包 装 係	18歳～ 63歳	12.7～ 14.2	—	食糧品製造	鷹巣町
生鮮パッケージ ジ（パート）	18歳～ 50歳	時間給 7	—	鮮 魚 の パ ッ ケ ー ジ	鷹巣町



円 傷害治療 1万5千円
18万円

※どちらにも幼稚園から高校卒業までの奨励援助金がついています。

春の全国

火災予防運動

冬から春先にかけてが一年のうちで最も火災の多い時期です。この時期の暖房器具の取り扱いには十分注意が必要です。

日頃忘れがちな火の恐ろしさを改めて思い起こし、火災を出さないために何をすれば良いかを、春の火災予防運動を迎え、考えてみましょう。

火災発生の時間帯で多いのが深夜から早朝にかけてです。

特に多いのが午前一時台、平成三年中で百一人が亡くなっています。寝入りばなや、熟睡している時間帯に当たるとためになる人が多いといわれます。次いで多いのが午後二時台と午後十一時台です。できるなら、家庭の中にも簡易火災警報器を取り付け寝ている間の火災に対応できる対策を取りたいものです。

無料法律相談

心配ごと相談所では、弁護士・長崎和行氏を迎えて、法律相談を開設いたします。

心配ごとで、お悩みの方はこの機会を利用し、お気軽にご相談ください。

相談は無料です。秘密は固く守ります。

当日は、心配ごと相談員も日常生活上の悩みなどについて相談をお受けします。

日時 3月8日(月)

午後1時～2時30分

会場 中央公民館2階和室

※法律相談については、予約が必要です。

3月5日(金)まで、社会福祉協議会事務局まで申し込んでください。

☎ 63-2109

早めの確定申告を

前年の所得税の確定申告最終日は、月曜日(土、日は休みです)と重なり税務署は大変な混雑となりました。

本年も最終日(三月十五日)は月曜日となりますので、前

年同様と大変混雑することが予想されます。

つきましては、できるだけ最終日は避けて早めに申告していただきますようお願いいたします。

※問い合わせは、大館税務署へ

海外研修

助成事業

県では、自主的に行う海外研修を支援し、広く県民の国際感覚を高め、地域の活性化に役立つことを願って実施します。

▽助成対象 個人、小グループ(2名以上9名以下)及び団体(10名以上)

▽研修期間 出国から入国までの期間で原則として7日以上

▽助成 滞在費の二分の一以内、ただし、助成限度額は個人で三十万円、団体で五十万円とし、小グループについては、個人または団体に準ずる。

▽研修報告 助成対象者は、研修実施後一カ月以内に研修報告書を提出すること。

▽募集数 個人、小グループ、

慶弔だより

2月1日～15日

誕生おめでとう
ごさいます



三沢 皇太(真由美) 二男 あけぼの町

三澤 亘(暢弘) 二男 松葉町

津谷 祥悟(健美) 長男 深 関

佐藤 未樹(将子) 二女 脇 神

おくやみ申し上げます

津谷 ナヨ(93歳) 松葉町

藤島 末治(74歳) 下 町

出川 喜惣治(89歳) 糠 沢

佐藤 イト(83歳) 四 渡

畠山 榮(66歳) 向黒沢

能登谷 實(69歳) 坊沢上町

長崎源三郎(73歳) 坊沢大町

三浦 フヨ(83歳) 下 町

小坂 信一(62歳) 摩 当

▽期間 2月16日～3月31日

を前期募集期間、7月16日～8月31日を後期募集期間とし、期間以外に応募は受

第1回謝恩町民号



雪景色観賞列車
—運賃無料!—

秋田内陸線も、皆様のご支援のもと全線開業3周年になりました。

これを記念し、ロマンスカーで内陸路の冬景色を眺める「雪景色観賞列車」を運行します。皆様の参加をお待ちしています。



- 期日 3月13日(土)
- 人員 35～45名(貸し切り)
- 行程 鷹巣10:36発→角館13:18着(13:45発)→鷹巣16:29着
- 費用 1人4千円(飲み物、つまみ、弁当代ほか)
※運賃は沿線協議会が負担し、無料となります。
- 主催 秋田内陸縦貫鉄道(株)
秋田内陸線観光
- 協賛 秋田内陸線沿線町村振興対策協議会
- 申込 役場企画調整課、または内陸線鷹巣駅(63-0643)内陸線観光(82-3666)へ

●時刻改正

○3月18日(木)より列車ダイヤが変わります。

JRとの接続時間を確保するため、大きな時刻改正ではありませんが、変更となっておりますので、ご利用の際はご確認ください。

申告相談日程表

(3/1～3/15)

月 日 (曜)	申 告 会 場	申 告 相 談 時 間		受付時間
		午前 9 時～正午	午後 1 時～ 4 時	
3 / 1 (月)	沢 口 林 業 セ ン タ ー	堂ヶ岱、上 野	中屋敷、小ヶ田	午前 8 時～ 午後 3 時
3 / 2 (火)	〃	藤 株	脇 神、小摩当 湯 車	〃
3 / 3 (水)	〃	小 森	川 口、湯ノ岱 坊 山、四 渡	〃
3 / 4 (木)	舟場自治会館	南鷹巣 西陣場岱	舟 場、高村岱 高森岱	〃
3 / 5 (金)	役場大会議室	住吉町、伊勢町	舟見、新舟見町 東上綱、下家下 西屋敷、北家後 西上綱、掛泥向 平成町	午前 7 時～ 午後 4 時
	広 域 交 流 セ ン タ ー	■税理士会無料申告相談 (税務署からの通知者)		
3 / 8 (月)	役場大会議室	元 町、米代町	宮前町、東横町	〃
3 / 9 (火)	〃	花園町 あけぼの町	材木町、大 町	〃
3/10 (水)	〃	旭 町、内幸町 幸 町	松葉町、葉たば こ耕作組合	〃
3/11 (木)	〃	※指定日に申告できなかった人		〃
3/12 (金)	〃	(混み合いますので人 数を制限します)		
3/15 (月)	〃			

▽応募資格 日本国籍を有し20歳以上、心身ともに健康

で、県内に在住する者。但し、グループ及び団体については、県内に主たる

事務所を置き、営利を目的としない組織であること。

香典返し

このたび次の方から、香典返しにと町社会福祉協議会へ寄付金をいただきました。

▽ご芳志に感謝いたします。

▽舟見町 成田嘉一郎さんから亡母ハルさんの香典返し

▽綴子下町 藤島ツナさんから亡夫末治さんの香典返し

▽掛泥 村上義雄さんから亡父嘉助さんの香典返し

▽新舟見町 佐藤チヨ子さんから亡母ミツさんの香典返し

▽米代町 越前谷政雄さんから亡母ナヨさんの香典返し

▽糠沢 出川禮一さんから亡父喜惣治さんの香典返し

善意

町社会福祉協議会へ、次の方から寄付金をいただきました。

▽ご芳志に感謝いたします。

▽秋田魁新報鷹巣支局長 村上昌人さんから三万円

提出先及び問い合わせ 秋田県企画調整部国際交流室 国際交流担当へ
〒010 秋田市山王四丁目1の1
☎0188-60-1218

旬の本棚、



新刊続々。

町立図書館

2:00 p.m. から

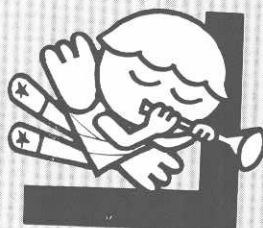
ボランティアグループ
「ジャングルジム」の公演

- 朗読劇
ぼかぼかはきらい 多田ヒロシ・作
●スライドによるおはなし
ふたこの木 谷川俊太郎・文

3月6日(土)

第28回読書感想文コンクール表彰式
第12回読書体験文コンクール表彰式

会場●たかのす風土館ホール



受付	12 : 40
開式	1 : 10
表彰	1 : 30
講評	1 : 50
公演	2 : 00
閉式	2 : 40